

5月例会は「ホテル・ルワンダ」

2007年度の活動について

例会のお知らせ

2006年1月の公開以来、要望の強かった作品、例会選定会議でも、最高位をはじめ上位が続いた「ホテル・ルワンダ」を、いよいよご覧いただけます。

内戦の中で繰り広げられるヒューマンストーリーで、テーマが重たいかもしれませんが、じっくり、



鑑賞ください。

名称 / 第30回例会「ホテル・ルワンダ」

日時 / 5月11日(金) PM1:50 ~、 PM4:10 ~、
PM6:30 ~

場所 / 加古川総合文化センター大会議室 (JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

タイトル / ホテル・ルワンダ

監督・脚本 / テリー・ジョージ

音楽 / ルパート・グレグソン=ウィリアムズ、アンドレア・グエラ

出演 / ドン・チードル、ソフィー・オコネドー、ホアキン・フェニックス、ニック・ノルティ、デズモンド・デュベ、デヴィッド・オハラ

データ / 2004年、イギリス/イタリア/南アフリカ、カラー、2時間2分、35mm、ドラマ/ヒューマン/戦争

・2004年度アカデミー賞 主演男優賞ノミネート、助演女優賞ノミネート、脚本賞ノミネート

・2005年度ゴールデン・グローブ賞ドラマ部門 作品賞ノミネート、主演男優賞ノミネート、オリジナル主題歌賞ノミネート

・2004年度トロント国際映画祭観客賞受賞

・2004年度AFIロサンゼルス国際映画祭 観客賞受賞

・2005年度全米脚本家協会賞 新人脚本家賞ノミネート

・2005年度放送映画批評家協会賞 作品賞ノミネート、主演男優賞ノミネート

・2005年度全米政治映画協会 ヒューマンライツ賞受賞、エクスポゼ賞ノミネート、ピース賞ノミネート

・2005年度ヨーロッパ映画賞 最優秀作曲賞受賞
映画祭審査員特別賞受賞

ストーリー

1994年、アフリカのルワンダで長年続いていた民族間の争いが大虐殺に発展し、100日で100万人もの罪なき人々が惨殺された。アメリカ、ヨーロッパ、そして国連までもが「第三世界の出来事」としてこの悲劇を黙殺する中、ひとりの男性の良心と勇気が、殺されゆく運命にあった1200人の命を救う。

「アフリカのシンドラ」と呼ばれたこの男性は、ルワンダの高級ホテルに勤めていたポール・ルセサバギナ。命を狙われていたツチ族の妻をもつ彼の当初の目的は、なんとか家族だけでも救うことだった。しかし、彼を頼りに集まってきた人々、そして親を殺されて孤児になった子供たちを見ているうちにポールの中で何かが変わり、たったひとりで虐殺者たちに立ち向かうことを決意。行き場所のない人々をホテルにかくまい、ホテルマンとして培った話術と機転を頼りに、虐殺者たちを懐柔、翻弄し、そして時には脅しながら1200人もの命を守り抜いた。



家族4人を救うことを心に決めたひとりの父親が、ヒーローへと飛翔する奇跡の過程を描いた実話である。

2007年度の活動について

このニュースの発送作業のときに、2007年度の加古川シネマクラブ定例総会を行っています。欠席の方も多いと思いますが、議案は、例会会場受付にも置いてありますので、ご確認ください。

ここでは、2007年度の活動の要旨を説明します。

まず、この会の中心の活動である2か月に1回の映画鑑賞会を例会として実施します。作品の選定には、多数の良い作品候補が必要ですので、推薦作品をどしどしお知らせください。

次に、一般の方を対象とした日本映画の上映会を2回実施します。そのうちのひとつは「フラガール」を予定しています。もうひとつは調整中です。いずれも文化庁の日本映画上映支援の補助制度を利用しての上映会です。このため、予算額が収支とも約40万円増えています。

また、他の団体などが加古川地域で開催する映画上映会に共催したり協力します。この会の会員が、PR(宣伝)を手伝ったり、チケットの販売に協力したり、当日のスタッフとして協力します。決定しているものは、兵庫県映画センターとの共催事業として、6月16日(土)には加古川市民会館で「武士の一分」の上映会を行います。

これらの活動を行う経費ですが、例会1回につき20万円くらいかかります。フィルム代、会場代、郵送代、資料コピー代が主なものです。いつも会員数の最低目標を200人とやっているのは、この経費が必要だからです。

一般の方を対象にした映画上映会は、入場料収入を充てるのですが、赤字になる恐れがあるので、2006年度から行っているように、赤字分を補助してもらえる制度を活用して、会の運営費に影響が無いように計画しています。

その他、他の団体が主催する映画上映会に協力したときに、前売券手数料や当日スタッフの食事代程度の協力金をいただける場合があるので、この分も収入として計上し、その程度の額を、各地の映画行事への参加する人への補助として支出に充てたりしています。

このように、例会を中心とした活動計画を立てています。

2006年度の収支を振り返って

それぞれの活動については、各回のニュースで報告していますので、会計を中心に説明します。

「会員数が200人を超えないと、この会の存続が困難です」と言い続けているのに、180~190人の会員数で、何とかできてきたのは、他の団体の映画上映会に協力したときの協力金があったこと、そして2005年度の映画上映会「父と暮せば」が運良く黒字であったからでした。

しかし、2006年度は、新たな会員を獲得しようと、例会で午前の部を試行しましたが、会員数が変わらなかったため、例会関係で約14万円の赤字となり、全体では、昨年度と比べ繰越金が約11万円減って、約2万円となっています。

この会の設立趣旨からしても、協力金などの副収入を充てにせず、基本的に、例会経費は、会員から会費を充てていく計画です。ご理解ご協力ください。

厳しい収支決算の中で、光明が射しました。会員数が203人になりました。少し安心しました。

前回例会の報告

3月20日の例会では、「いつか読書する日」を鑑賞しました。参加会員147人。

田中裕子、岸部一徳が好演したもので、長崎を舞台に、比較的平凡な日常生活の中での中年男女の恋愛を描いた良い作品でした。「愛の流刑地」などと表現は対照的でしたが、テーマの本質は同じようなものとも言えるので、比べてみるのもおもしろいかもしれません。

会費納入方法変更のお礼

前回のニュースなどで、現金納入の方に郵便局の通帳からの自動払込みをお願いしましたところ、多くの方に納入方法の変更をいただきました。ありがとうございました。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 203人(3月20日現在)